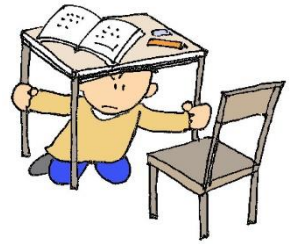


座間市いっせい防災行動訓練実施報告会に参加して

日時 平成30年3月16日(金) 午後2時30分～5時
場所 サニープレス座間多目的室
参加者 行政・消防・自衛隊・商工会・自治会関係者
約70名程度



第一部 実施報告 ぞま災害ボランティア 濱田代表
危機管理室 坂本係長



訓練講評

2015年から6回目のシェイクアウト訓練となり、登録は5万人を維持したが、自治会や自主防災会の登録はふえているが、「企業」・「医療や福祉関係」・「任意団体」の登録が減り前年度を下回った。また避難所開設訓練も各地で実施してきているが、市民向けの防災講座への参加者は激減してきており、今後の検討課題である。

ほうさい講演会

第二部 防災講演

演題 「災害に備えるとは 自助が共助を可能にし、公助を有効にする」

小林一樹教授 明治大学 政治経済学研究科 危機管理研究センター



講演趣旨

- ・座間市の人口 57,500 世帯 129,400 人 高齢者 32,200 人 (24.9%)
- ・被災者を助けるのは隣人
- ・「超・超高齢者社会」の被災では要配慮者が支援(可能)者を上回る
社会の防災をどうする。⇒高齢者こそ「自助」すべき
家の耐震化・家具の固定・食料の備蓄・家屋の耐震改修の促進が重要
- ・自助が共助を可能にする
地域で取り組む「近助」は救出救助・初期消火が大事
- ・日頃からの「まちづくり」
「災害に強いまち」かどうかは「日常のまちづくり」で決まる
- ・1961年災害基本法で県・市町村に地域防災計画の策定が義務付けている
直近の2013年コミュニティが主体的に防災対策を検討し、地区のルールとして定めることができる「地区防災計画」が創設された。

質疑応答

- ・家屋の耐震改修でパネル式住宅については改修の必要がありますか？
⇒一般的にはパネル式(壁構造)の場合は耐震改修の必要はありません

(感想)

シェイクアウトは定型化されるとともに、新鮮味・緊張感がなくなっていることが懸念される。市自連としてもここでもう一度重要性を認識し、再度新しいアイデアで訓練を実施することが必要である。

(文責) 防災部 清原良昭

